

科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

課 題 番 号	15H05704	研 究 期 間	平成 2 7 年度～平成 3 1 年度
研 究 課 題 名	自然免疫の包括的理解		
研究代表者名 (所属・職)	審良 静男（大阪大学・免疫学フロンティア研究センター・特任教授）		

【平成 3 0 年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A +	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A -	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(評価意見)		
本研究は、これまで Toll 様受容体(TLR)の生理的意義に関して卓越した業績を上げてきた研究代表者が、TLR シグナルによる mRNA 安定性の管理機構、及び疾患特異的マクロファージの制御機構を明らかにすることで自然免疫の統合的理解を目指すものである。 mRNA 安定性の管理機構については、炎症性サイトカインの mRNA を不安定化する Regnase-1 の腸管上皮細胞特異的欠損マウスを用いた研究から、Regnase-1 が腸の炎症性疾患や癌の発症に関与することを示している。疾患特異的マクロファージ制御に関しては肺線維症モデルを用いて線維症発症の鍵を握る新規マクロファージ SatM の同定・解析、及びその分化過程を明らかにするなど順調に進展している。現在、さまざまな免疫担当細胞特異的な欠損マウスの作製も進んでいる。		